

2-3 笠岡市における歴史文化を活かしたまちづくりの取組

(1) 歴史文化の保存活用に係る市民活動

笠岡市には、多くの歴史文化遺産が残るだけでなく、各地区のまちづくり協議会や文化財保存団体、郷土史研究グループ等をはじめとして、地域の歴史や歴史文化遺産の調査・研究、保存・継承、活用等に携わる多くの市民団体があり、積極的な活動を行っている。こうした市民団体は、これまでも歴史文化遺産に関わる取組を行っており、行政の進める歴史文化遺産の保存や活用に関わる事業を補完、あるいは牽引する重要な役割を担ってきた。

また、その活動は、歴史文化基本構想の策定目的として掲げた「歴史文化遺産の保存・活用の取組を地域の活性化につなげ、笠岡市の魅力を高めていく」(2ページ参照)ことを実現するために、欠くことのできないものである。以下で、笠岡市における歴史文化遺産の保存活用に関わる、現在の市民団体の活動概要を示す。

■歴史文化の保存活用に係る市民活動の概要

地区	活動主体	関連する歴史文化遺産等	主な活動内容
北川	北川まちづくり協議会 北川の昔を訪ねる会	北川地区の歴史と文化財	「北川の史跡ガイドブック」や「北川の人物」などの郷土史の冊子刊行を行うとともに、各所の歴史的スポットに簡易な案内板を設置したり、それらに関連するウォーク（まちあるき）などを開催している。
	茅原基治船長を顕彰する会	茅原基治	茅原基治船長の顕彰碑の建立や啓発活動を実施している。
	くりやま水車会	民俗資料	民具・農具の収集や昭和時代の仕事・暮らしを子ども達に伝える行事の開催を行っている。
	北川盆踊り保存会	北川の盆踊り	北川小学校において盆踊りの指導を行うなど、北川の盆踊り（薬師踊り他）の継承活動を実施している。
新山	にいやま古墳管理協議会	長福寺裏山古墳群	笠岡市からの委託で、年5回、古墳群の草刈りを実施している。地区内の各種団体に呼びかけて、100人規模での実施となっている。
	新山地区自治会	笠岡市井笠鉄道記念館	指定管理者として井笠鉄道記念館を管理運営しており、毎年3月末に鉄道記念館まつりを開催している。
		旧土倉家住宅	旧家の土倉邸を改修し、まちづくりの拠点として利用している。現在は地域おこし協力隊が入居している。
	にいやま「文化を楽しみ育てる会」	新山地区の歴史と文化財 木山捷平 吉岡信元（在田軒道貞）	「伝えたいわがふるさと」など多数の郷土史の冊子を刊行している。また、木山捷平、吉岡信元（在田軒道貞）の顕彰活動と、古城山公園の木山捷平詩碑や説明板周辺の清掃を実施している。その他、歴史的スポットに案内石柱を設置したり、講演会や歴史ウォークの開催を実施している。
	新山地区盆おどり伝承会	新山地区の盆踊り	新山地区的伝統的盆踊りの継承活動を実施している。
吉田	エヒメアヤメ保護育成会	エヒメアヤメ自生地	自生地の草刈りと監視、箱田山神社でエヒメアヤメ栽培園を管理している。また、毎年4月には、エヒメアヤメまつりを開催している。
	吉田小学校	エヒメアヤメ	小学3年生の授業として、エヒメアヤメを種から育てている。また、6年生は歴史の授業として、吉田地区の古墳を見学している。

地区	活動主体	関連する歴史文化遺産等	主な活動内容
吉田	吉田公民館	吉田地区の歴史と文化財 吉田音頭	「ふるさとよしだの史跡」などの郷土史冊子の刊行を行うとともに、吉田音頭の継承も行っている。
	関戸廃寺跡保存会	関戸廃寺跡	笠岡市の委託で、年5回、保存会（関戸自治会）で関戸廃寺跡周辺の草刈りを実施している。
大井	大井盆踊保存会	大井の盆踊り	「大井の盆踊り」を伝承するために冊子を作成し、継承活動を進めている。大井小学校の3年生に盆踊りの指導を行っている。
	大井文化探訪の会	大井地区の歴史と文化財	大井地区の郷土史や文化財について調査等を行っている。
陶山	陶山公民館 (郷土史研究会)	歴史案内板 口承文芸	各所の歴史的スポットに説明板を設置したり、「陶山の民話」の刊行を行っている。
	陶山地区みんなが輝くまちづくり協議会	陶山地区の歴史と文化財	「ガイドブック陶山100選」「陶山100選ガイドマップ」の刊行や「神の峰」の登山道の整備を行っている。 また、協議会のウェブサイトで、陶山地区の歴史的スポットや名所を紹介している。
城見	城見地区まちづくり協議会	城見地区の歴史と文化財	「城見のあゆみ」の刊行や大見山登山道の整備を行っている。
今井	今井公民館	歴史案内板	「今井地区 歴史を語る遺跡・文化財」の刊行や各所の歴史的スポットに説明板を設置している。
	今井を訪ね・語ろう会	今井地区の歴史と文化財	小学生や地域住民向けの文化財ウォークを実施している。 また、今井小学校の総合学習として、児童に地域の歴史を教えている。
笠岡	笠岡小学校	敬業館の跡	6年生が小寺清先の命日にお墓参りを実施している。
	白印茶会奉賛会	津田白印	白印茶会を開催している。
	笠岡町の歴史を知る会	笠岡地区の歴史と文化財	「写真で見る笠岡遊覧恋浮雲」や「笠岡の歴史散見集」などの刊行を行っている。
	笠岡地区まちづくり協議会	笠岡地区の歴史と文化財	「かさおか自慢 子ども新聞部」の活動を行っている。
	ふるさと交流館	郷土の風景	郷土のなつかしい風景を油彩画として描き、展示している。
富岡・番町	笠岡東公民館	東公民館内の歴史と文化財	地域内の遺跡や旧跡ウォークを実施したり、「ふるさと探訪」の冊子を刊行している。
金浦	金浦ヒッタカ・おしぇらんご保存会	ヒッタカ おしぇらんご	伝統行事ヒッタカ、おしぇらんごの継承を進めている。
	金浦小学校・金浦中学校	ヒッタカ	子どもヒッタカ等の開催を行っている。
	笠岡市観光ガイドボランティア他	菅原神社眼鏡橋	物品販売やボランティアの解説などを行っている。
	個人	清水邸庭園	江戸時代に作庭された庭園で、文化財ウォークなどのコースにも取り入れられている。
	金浦地区まちづくり自治協議会 金浦郷土史研究会・金浦歴史研究会	金浦地区の歴史と文化財	「孫たちに語りつぎたい金浦」「金浦探訪」「金浦地区 石碑・歌碑しらべ」「笠岡市内のミニ霊場」などの冊子を刊行している。
	地域おこし協力隊	麦稈真田	麦稈真田づくりの技術を広く紹介している。また、真田紐製作イベントを開催している。

地区	活動主体	関連する歴史文化遺産等	主な活動内容
大島	大島まちづくり協議会	大島地区の歴史と文化財 御嶽山、青佐山城跡	「大島歴史散歩」「ふるさと大島の伝説」などの冊子を刊行している。また、登山道の整備と立木の伐採、案内板の整備を行っている。
	大島の傘踊り保存会	大島の傘踊り	大島の傘踊りの伝承や後継者の育成を行っている。また、大島小・中学校での指導を行っている。
	大島郷土史研究クラブ	大島地区の歴史・文化財	大島地区の郷土史や文化財の調査、勉強会を開催している。
神島	神島協議会	神島地区の歴史・文化財	神島史料館において神島の歴史・考古・民俗資料等を展示している。また、「神島史誌」を発刊している。
	地域おこし協力隊	長鋪邸	築200年の元庄屋敷を利用して、イベントを開催している。また、地域おこし協力隊員が、長鋪邸を文化や芸術活動の拠点にすべく準備を進めている。
	天神祭保存会	神島天神祭	神島天神祭の継承を行っている。
	神島盆踊り保存会		神島盆踊りの伝承を行っている。
	神島公民館 神島小学校	神島八十八カ所	共同企画として、「てくてく神島」を実施している。小学1~6年生までの間に神島八十八カ所全ての札所を巡っている。また、八十八カ所ガイドブックやスタンプ帳、手ぬぐい等を制作販売している。
	個人等	神島八十八カ所	各札所や巡拝路を管理している。
神島外浦	やっこ行列保存会	奴行列	神島神社祭礼における奴行列の継承、後継者の育成を行っている。
	神島外浦まちづくり協議会	山桜	山桜まつりと山桜写真展を開催している。
高島	高島観光協会	高島	高島の遊歩道の清掃活動などを実施している。
	個人	高島おきよ館	高島で採取した土器や石器など（縄文・弥生・古墳・古代・中世）の考古資料をはじめ、民具などを展示している。
	高島まちづくり協議会	つつじ	毎年4月に「高島つつじ祭り」を開催している。
白石島	白石島観光協会	白石島	白石島のオリエンテーリングの登録コースを整備している。
	白石踊会	白石踊	白石踊の継承活動や後継者の育成、研究、公開活用を進めている。また、白石小・中学校での指導のほか、出前講座を行っている。
	個人等	嘉惣次邸・屋号 「泊まりや」	かつて伊能忠敬が宿をとった庄屋の小見山邸である。現在では建て替えられ所有者も変わって、空き家となっているが、島の玄関口にある古民家として、イベント等で利用されることがある。
	白石島公民館	元禄綿	公民館活動として戦後に途絶えた「元禄綿」の伝統を復活させ、取組を進めている。小学校跡地で綿栽培、糸つむぎ、手織り、草木染めを行っている。
北木島	北木島流し雛保存会	北木島の流し雛	伝統行事「北木島の流し雛」の伝承を行っている。
	元気ユニオン in 北木 北木中学校	北木島の石工用具	中学校の北木石記念室で石工用具を収集・展示している。
	石切唄保存会・北木西公民館	石切唄	石切唄の伝承と後継者の育成を行っている。
	鶴田石材株式会社	北木石の採石場	採石場の展望台を設置し、見学ツアーを開催している。

地区	活動主体	関連する歴史文化遺産等	主な活動内容
北木島	K's LABO	北木石	北木島の石材業の歴史・文化を伝える「石の資料館」や島巡り用の自転車の貸出を行っている。
	光劇場友の会 北木西公民館	旧映画館「光劇場」	古い映画館を復活し、北木石の映像上映と喫茶コーナーの運営を行っている。
真鍋島	八幡祭り保存会	真鍋島の走り神輿	八幡神社の祭礼「真鍋島の走り神輿」の実施と継承を行っている。
	真鍋島まちづくり連絡協議会	真鍋島の文化財など	島内の名所などへの道や散策路の管理を行っている。
	真鍋島ふるさと村資料館	郷土資料、歴史資料	真鍋島ゆかりの歴史・民俗資料が陳列されている。
	真鍋小学校	真鍋島の名所・文化遺産	島内の風景を版画で表した「ふるさとカレンダー」を作成し、島の魅力を紹介している。
飛島	飛島自治振興会	椿、うどん	自生しているヤブツバキを利用し、伝統の椿油を復活させ、販売している。また、伝統食である手打ちうどんでのもてなしを行っている。
六島	六島まちづくり協議会など	水仙 古民家活用	「六島水仙ツアー」や「六島水仙植えるカムツアー」を開催している。ツアーでは、島外からのボランティアを募り、水仙の球根を植えるなどの取組も実施している。 大正期の古民家を改装してゲストハウス＆カフェ「島小屋」として活用している。
市全域	カブトガニ保護少年団	カブトガニ	カブトガニ繁殖地の海岸清掃や学習活動などを実施している。
	日本カブトガニを守る会	カブトガニ	カブトガニの研究と保護啓発活動を実施している。
	観光ガイドボランティア		市内の観光地、名所・旧跡の案内を行っている。
	笠岡を歩く会		市内の名所・旧跡をめぐるウォーキングを開催している。

(2) 歴史文化の保存活用に係る笠岡市の主な取組

笠岡市内各地区において市民が中心となって様々な活動を行っているが、笠岡市でも地域の歴史や文化の調査・研究、保存・継承、活用等に関わる事業や取組を実施している。笠岡市が行っている歴史文化に係る取組の概要は以下のとおりである。

■歴史文化の保存活用に係る笠岡市の主な取組の概要

笠岡市の事業・取組	内 容	概 要
友好都市（島根県大田市）	大田市との交流事業の支援	江戸時代中期の名大官、井戸平左衛門正明公が両地方を兼務していたことから歴史的交流があり、平成2年（1990）4月14日に友好都市縁組を締結した。
生物多様性、希少野生動植物の保護	生き物観察会	地域の自然環境の理解を深める活動を実施している。
美しく豊かな海づくりに関する協定事業	笠岡市の美しく豊かな海づくりの推進	岡山県、笠岡市、漁協、NPO法人及び豊かな海づくり協力会が連携し、アマモ場再生や海ごみ回収等の活動を行い、魚やカブトガニも安心して暮らせる笠岡市の美しく豊かな海づくりを進める。
笠岡駅前土地区画整理事業	既成市街地における道路等の都市基盤施設の整備改善、良好な宅地供給等、一體的総合的なまちづくりを行う。	新しい都市機能の中に、郷土の誇れる文化財を活かし、笠岡らしさを感じさせる生活文化が溶け合った街づくりを目指す。
笠岡駅周辺整備基本構想	笠岡市の中心として、「交流を育む都市機能拠点の形成」「健康をつくる、歩いて暮らせるまちづくり」「若者が集う賑わいのあるまちづくり」を目指す。	笠岡を形づくってきた歴史文化に関する資源を活かし、まちあそびやまちの暮らしを楽しむ。
古城山公園	古城山公園の整備・維持管理	中世の城跡・近世の眺望名所を、明治時代に切り下げ、公園として整備。現在では桜の名所となり、多数の文学碑がある。
地域ブランドに関する事業	かさおかブランド事業の実施	笠岡ならでは魅力あふれる高品質を誇るものを「かさおかブランド」として認定することにより、観光推進と地域活性化を図る。観光部門には、「北木島採石場及び採石跡地の景観と石切文化・生活道路から見えた丁場跡」・「神島天神祭」「白石踊」などが認定されている。
観光事業	文化財関連ツアーの開催 観光資源の発掘・紹介	笠岡諸島各島の代表的な文化財を鑑賞・見学できるツアーを各島1回ずつ実施。 マスコミ向けに年間100件程度の観光PR活動を行っている。また、笠岡市観光ガイドブック刷新にあたり、かさおかブランド協議会と協力し、観光資源の発掘をしたり、観光施設の紹介方法を考案している。

笠岡市の事業・取組	内 容	概 要
地域振興策	白石踊後継者育成事業	国指定重要無形民俗文化財である白石踊の保存と後継者育成を目的とした事業で、定期練習の開催や各種イベントへの参加を実施している。
自然公園	瀬戸内海国立公園	瀬戸内海国立公園に指定されている御嶽山・高島・白石島の遊歩道や便所の管理を行っている。また、平成 29 年度（2017）には、白石島を散策するツアーを開催した。その他、甲脛にある甲脛神社は、岡山県郷土自然保護地域に指定されており、その保護を行っている。
教科等指導	地域学習、郷土歴史学習	社会科、生活科、道徳、総合的な学習の時間等の授業を通して、地域の歴史文化事象について知ったり、それらを通して社会的なものの見方考え方を広げたり深めたりする学習活動を行っている。
教材への活用	副読本『わたしたちの笠岡』の作成	笠岡市内の様々な歴史文化事象から、小学 3 ~ 4 年生の社会科の学習内容を教材化し、副読本『わたしたちの笠岡』として全 171 ページの冊子に集約している。
学校教育	井戸平左衛門賞の実施	享保の飢饉に際して、自らの身命を賭して多くの民衆を救った井戸平左衛門の功績にちなみ、学業に努力し人間愛にあふれた活動をしており、他の模範となる中学 2 年生の生徒を表彰している。
文化財の調査・保護	埋蔵文化財の発掘調査及び保護、文化財の悉皆調査	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の適切な保護、発掘調査等を行うとともに、将来に引き継いでいく。また、文化財の総合調査等を行い、その把握に努めている。
文化財の活用・整備	笠岡ふるさと再発見事業、夏休み子ども歴史教室	文化財を活用し、地域の歴史文化の良さを知ってもらい、笠岡市への愛着や誇りを深めてもらう活動を行っている。
笠岡市立郷土館	文化財の展示、古文書・民俗資料の収集	笠岡市の歴史文化や先人についての理解を深めてもらうために文化財の調査の成果や収集資料を展示している。史料や民具を収集し、散逸を防止している。
笠岡市井笠鉄道記念館	井笠鉄道に関わる資料や車輌の展示	かつて笠岡から井原・矢掛を走っていた軽便鉄道 井笠鉄道についての情報発信を行い観光資源として活用している。「井笠鉄道記念館まつり」を開催している地元の新山地区の活性化の一助となっている。

笠岡市の事業・取組	内 容	概 要
笠岡市立カブトガニ博物館	カブトガニ繁殖地の保全, カブトガニの人工飼育, 成体行動調査, 博物館展示	展示や普及・啓発活動を通じ, 豊かな自然環境の象徴でもあるカブトガニやその繁殖地の保全に努め, 将来にわたり引き継いでいく。
笠岡市立竹喬美術館 ちつきょう	お の ちつきょう 小野竹喬の功績の伝承, 作品の収蔵・展示	笠岡市出身の小野竹喬の業績をたたえて, その功績を後世に伝えるとともに, 竹喬芸術を育んだ笠岡の地や, その才能が開花した京都にゆかりの近代日本画の紹介に努めている。
文学者の顕彰と 文学の振興	木山捷平文学選奨の実施, 森田思軒講演会の開催, 市立図書館の文学コーナーの展示 きやま しょうへい もりた しけん	笠岡出身の文学者を顕彰するとともに, 市民の文芸活動を奨励し, 豊かな市民生活の振興を図っている。
生涯学習への活用	たくましい笠岡っ子, 県西部の文化	地域の歴史に興味や知識を深めてもらうために, 歴史文化を活用して, 子どもから高齢者まで幅広い年代層に対する行事を企画開催している。
公民館	講座や講演会の実施	生涯学習施設として, 地域の中で歴史文化に関わる講座や行事を開催している。

(3) 市民アンケート調査結果

本構想の策定にあたって、市民に対して、笠岡市の歴史文化に対する期待や想い、市の施策に求める事項等についての意向を把握するアンケート調査を実施した。アンケート調査の概要と結果については以下のとおりである。

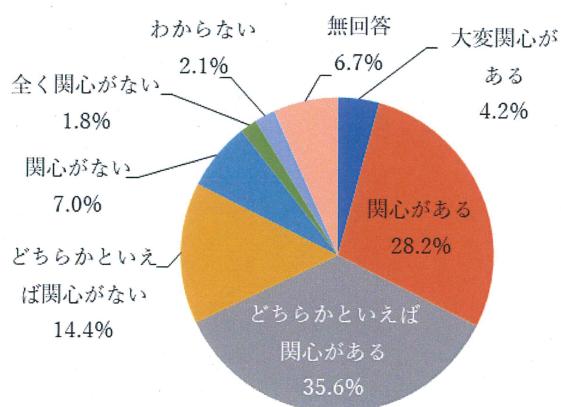
① 調査の概要

項目	内容
調査対象	笠岡市に在住する市民
配布数	1,196 件
調査方法	住民基本台帳より無作為抽出、調査票を郵送、返信用封筒で回収
実施期間	平成 29 年（2017）12 月 4 日（月）～12 月 22 日（金）
回収	284 件（回収率 23.7 %）

② 調査結果

■市民の文化財に対する関心度について

文化財（建築物、祭り等の民俗文化財、史跡、天然記念物など）に対して、「関心がある（大変関心がある／関心がある／どちらかといえば関心がある）」の合計が 68.0% となり、半数以上の市民が文化財に関心を持っていることがわかる。

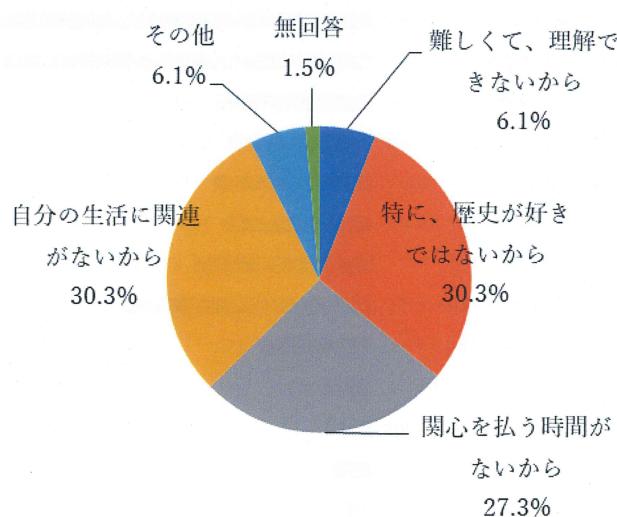


文化財別の関心度をみると、「寺社仏閣（58.5%）」「名勝地（庭園・海浜・山岳等）（58.0%）」「景観・町並み（51.3%）」「祭事（46.1%）」「自然環境（40.4%）」等への関心度が高い傾向にある。

市民の関心度の高い文化財に関しては、歴史を活かした取組を進めるにあたり、核となる文化財となりうる可能性があるため、検討していく必要がある。



一方、文化財に関心がないという理由に関しては、「特に、歴史が好きではないから（30.3%）」や「自分の生活に関連がないから（30.3%）」「関心を払う時間がないから（27.3%）」といった意見が挙がっており、歴史や文化財への関心度を高めるとともに、市民の生活の中でそれらに触れるきっかけを創出することが求められる。



■地域の文化的な“資源・宝”と思われるものや伝統行事、技術・技能、衣食住について

地区ごとの文化的な“資源・宝”としては、「ひったか」や「おしぇらんご」「大島の傘踊り」等の地域の祭礼・祭事といった無形の伝統行事が上位に挙がっており、これらの伝統行事が地域に根差していると考えられる。また、建造物や史跡等といった有形の文化財についても多く挙げられており、地域ごとの自然景観についても挙げられている。

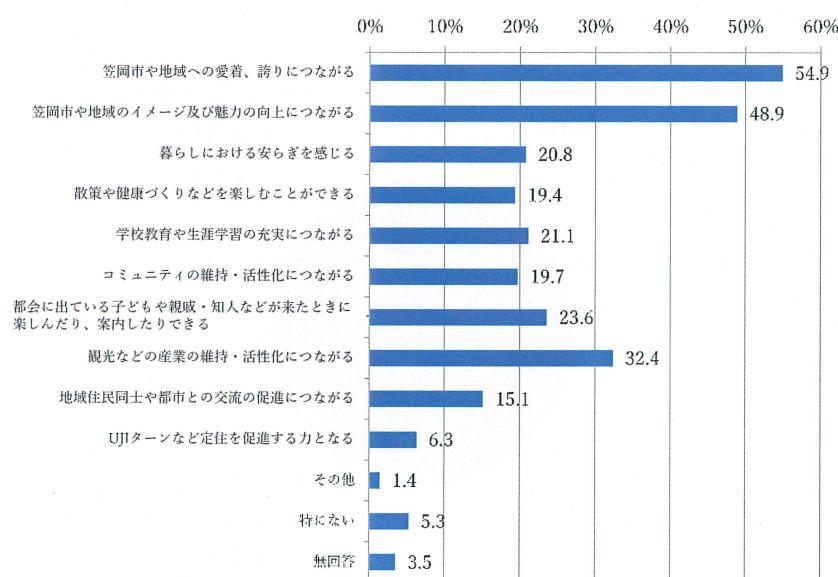
笠岡市全体での文化的な“資源・宝”については、いわゆる笠岡市の3K（干拓・カブトガニ・笠岡諸島）のうち「干拓」を除く「カブトガニ」「笠岡諸島」、伝統行事の「白石踊」「ひったか」「真鍋島の走り神輿」なども多く回答されている。昔ながらの行事を宝として守っていきたい意向は強いと考えられる。

①伝統行事		②歴史・文化		③自然・景観		④歴史・文化と自然・景観の複合	
白石踊	45	竹喬美術館	16	カブトガニ	49	笠岡諸島	19
ひったか	31	遍照寺多宝塔	8	カブトガニ博物館	29	古城山公園、城山、桜	15
おしぇらんご	20	津雲貝塚	8	遍照寺いちょうの木	4	干拓地	8
走り神輿(真鍋島)	15	神社仏閣	7	御嶽山からの景観	3	応神山	3
大島の傘踊り	10	小田県庁跡・笠岡代官所跡	6	海	3	北木島	2
天神祭	9	眼鏡橋(菅原神社)	5	島	3		
祭り(笠神社)	6	北木島の石	5	カブトガニ繁殖地	3		

■地域の文化的な“資源・宝”がもたらす効果や役割について

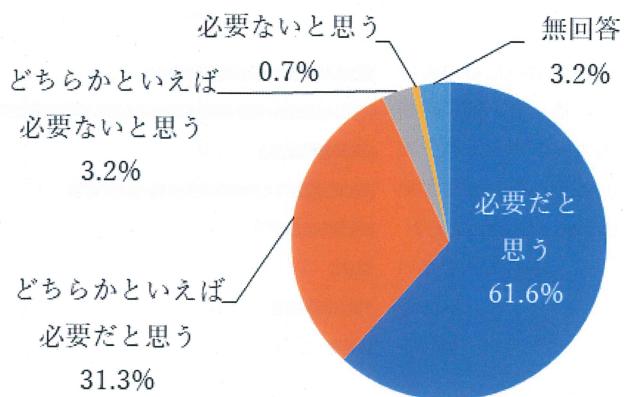
地域の文化的な“資源・宝”がもたらす効果や役割に関しては、「笠岡市や地域への愛着、誇りにつながる（54.9%）」「笠岡市や地域のイメージ及び魅力の向上につながる（48.9%）」「観光などの産業の維持・活性化につながる（32.4%）」が上位に挙がっている。

文化財を活用した取組を進めるにあたり、これらの効果や役割を踏まえた取組を検討する必要がある。



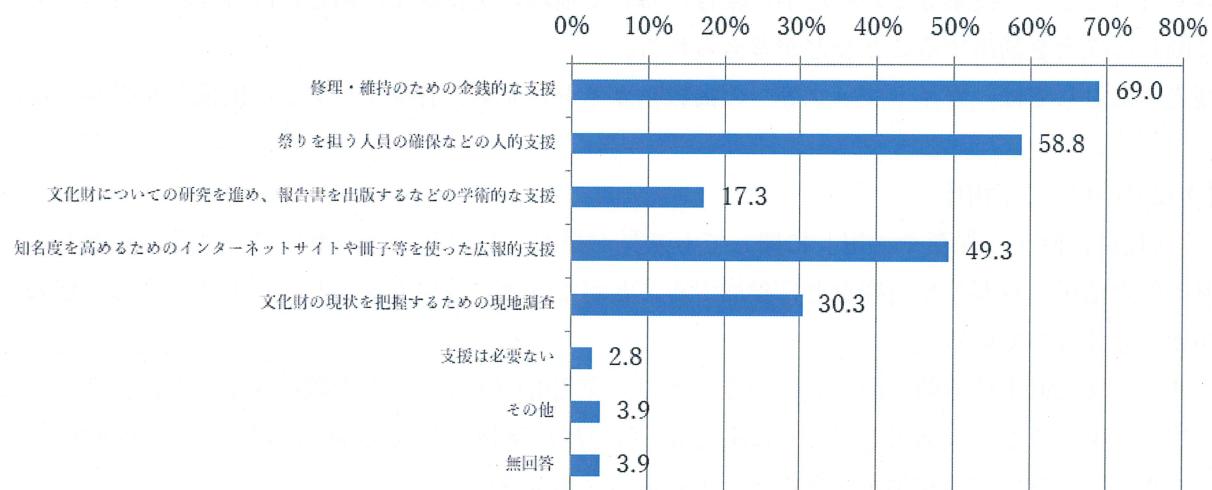
■市内の文化財を後世に引き継いでいくための取組や動きについて

市内の文化財を引き継いでいくための取組や動きに対して、「必要だと思う（必要だと思う／どちらかといえば必要だと思う）」の合計が92.9%となっている。



また、それらの取組の支援として「修理・維持のための金銭的な支援」を必要とする回答が69.0%と高い。次いで「祭りを担う人員の確保などの人的支援(58.8%)」「知名度を高めるため、インターネットサイトや冊子等を使った広報的支援(49.3%)」が挙がっている。

このことから、文化財の修理や維持に関する費用、少子高齢化による担い手の不足、情報発信等といった課題に対する施策の構築が求められている。

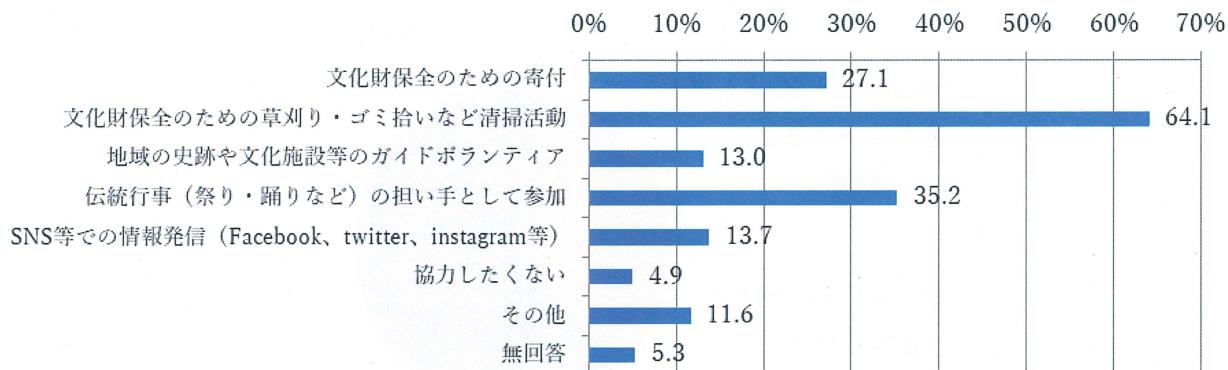


■文化財に関する活動のうち、市民が協力できることについて

市民が協力できることについては、「文化財保全のための草刈り・ゴミ拾いなど清掃活動(64.1%)」が最も多く、次いで「伝統行事（祭り・踊りなど）の担い手として参加(35.2%)」が挙げられている。

身近にできることが上位に挙がっており、島での祭礼においても行事のときにだけ帰省するといったことから、今後も市民の協力を得ながら、伝統行事を維持していくことが大切である。

高齢化や仕事などで忙しいことから、人的支援は難しいが、「文化財保全のための寄付」といった金銭的な支援に対する回答も多く、文化財保全のために寄付することができる仕組みの構築なども求められている。



■文化財を活用したまちづくりの取組について

【認知度の向上】

「認知度や知名度を高めることはまずは重要」であるといった意見が挙がっていることからも、市内外に対して、笠岡市の魅力・文化財を積極的に情報発信していくことが必要である。

インターネットやSNS等を用いてPRを行うとともに、文化財の調査・整備過程の様子やイベントの充実等といった情報発信の方法も検討していく必要がある。

また、市内向けには、笠岡市の文化財を後世に伝えていきたいという想いがあることから、子ども等を対象として、授業等といった学校教育において地域の文化財を活用した内容を組み込み、文化財に触れる機会を創出することなどが考えられる。

観光客に対しては、ガイドブック等への掲載やガイドの充実、各種イベントの開催等が必要となる。

【文化財の保存・活用】

「文化財に関する保存や活用」に関しても意見が挙がっており、どの地域でも高齢化が進み、文化財の保存活動、草刈りや清掃などに参加することができず、住民も減少していることから、個人の負担が大きくなっている。

また、文化財を積極的に活用していくことで、文化財のすばらしさを理解することができるとともに保護にもつながる。活用していくにあたり、駐車場の確保や2次交通の整備、トイレの充実、表示・案内板・マップなどの整備を行うなど受入環境の整備も求められる。

【まちづくり・地域活性化】

「地域の交流センターや集会所の活用によって、住民が集える機会を創出し、笠岡市の歴史や誇りを後世につなぎ、市を活性化させていきたい」といった意見があった。

市内には、手つかずの文化財や資源があり、それらを活用していくことが求められる。市内外に笠岡市内の文化財の魅力を発信し、魅力や歴史を理解してもらうことが重要である。

そして、積極的に文化財を活用していくことが文化財の保存に寄与し、それが地域の活性化につながり、ひいては笠岡市に戻ってきたり、移り住む若者が加わることで、新たな担い手の確保や定住といった良い循環を生み出すことにつながる可能性がある。

2-4 笠岡市における歴史文化を活かしたまちづくりの課題

「笠岡市の歴史文化の概要」や「笠岡市における歴史文化を活かしたまちづくりの取組」で見てきたように、笠岡市には多様な歴史文化遺産があり、市や市民団体などが、それらを保存・継承し、活用していくために様々な取組を行ってきた。一方で、市民アンケート調査の結果などから、そうした取組を地域の活性化や魅力の向上などに結びつけていくために、解決すべき課題も浮かび上がってきた。

(1) 歴史文化の価値の認識及び共有に係る課題

- ・歴史文化を活かした取組は、各地区において多様な主体によって展開されているが、その効果が「点」で終わっている部分がある。また、広域にまたがる歴史文化遺産の保存活用を行うための仕組み・体制が不十分である。
- ・干拓事業や利水・治水に関わる歴史文化遺産に対する歴史的な価値が地域の中に浸透していない。
- ・文化や教育に関わる歴史文化遺産が、地域の大切な財産として必ずしも認識されていない。
- ・市民アンケート調査から、歴史文化遺産への関心があまり高くない世代(30代と50代)に、歴史文化の価値や歴史文化遺産がもたらす効果について認識してもらうような取組が必要である。
- ・次世代に歴史文化を引き継ぐために、子ども等を対象にした地域への愛着をさらに深めてもらうような取組が必要である。

(2) 歴史文化の保存に係る課題

- ・個々の歴史文化遺産が、有機的な関係を持つものとして必ずしも捉えられておらず、総合的な価値付けが不十分なままになっている。また、指定等文化財以外の歴史文化遺産の価値の把握が不十分である。
- ・歴史文化遺産の把握や学術調査が不十分で、適切に保存・管理されていない場合もあり、徐々に失われていくことが危惧されている。
- ・歴史文化遺産を保存・継承していくための仕組みや人材が不足しており、さらに人材育成も必ずしも十分ではない。
- ・少子高齢化と人口減少に伴い、自然景観や文化景観の維持を行う担い手の確保が難しくなりつつある。また、伝統行事に必要な道具の維持や開催に必要な担い手が減少する傾向にある。
- ・景観の維持、登山道や遊歩道の整備などを、特定の団体や住民が行う傾向にある。そのため、こうした活動が先細りになっていく可能性がある。
- ・自然や景観を維持するために、何をどの範囲まで保存していくかという調査が必要である。

(3) 歴史文化の活用に係る課題

- ・原始時代から古代の考古学的価値の高い遺跡では整備が進んでいるが、港町のにぎわいを象徴するような商家や町なみ、港湾施設などでは保存や活用が遅れている。
- ・個別の歴史文化遺産を活用した取組はよく行われているが、面的な連携や活用が不十分である。また、複数の歴史文化遺産を一つのまとまりとして保存・活用するための総合的な価値付けが不十分であるため、必ずしもそれを観光やまちづくりに活かすことができていない。
- ・施策間での連携が図られておらず、「観光振興と歴史文化遺産」、「都市計画と歴史文化遺産」などの連携が必要である。
- ・祭礼や伝統行事が、担い手不足、生活様式や社会の変化などのために、行事本来の趣旨から離れて、イベント化しつつある。
- ・歴史文化遺産の価値や魅力をガイダンスする設備の整備やガイドの育成が必要である。
- ・学校教育と連携した歴史文化遺産を活用する取組が必ずしも十分ではない。
- ・歴史文化遺産をPRする効果的な情報発信が必ずしも図られていない。

(4) 歴史文化を活かしたまちづくりの仕組みに係る課題

- ・歴史文化遺産を活用した取組が、各地区で行われているが、そうした活動の主体をつなぐ仕組みや組織、集えるような場や機会がなく、連携がうまく図られていない。
- ・市民アンケート調査の結果では、歴史文化遺産に関して、市民が協力できることとして「清掃活動や担い手として参加」、「寄付」などが上位にあがった。こうした市民の意識を実際の取組につなげていく仕組みが十分ではない。
- ・行政を含む多様な主体の連携を推進する必要がある。